

あとから来る者のために  
坂村 真民  
あとから来る者のために  
田畑を耕し  
種を用意しておくのだ  
山を  
川を  
海を  
きれいにしておくのだ  
ああ  
あとから来る者のために  
苦勞をし  
我慢をし  
みなそれぞれ力を傾けるのだ  
あとからあとから続いてくる  
あの可愛い者たちのために  
みなそれぞれ自分でできる  
なにかをしてゆくのだ

# U-net通信

2014年11月  
Vol.82

発行:地球環境・共生ネットワーク 〒105-0014 東京都港区芝2丁目6番3号三宅ビル4F TEL:03-5427-2348 FAX:03-5427-5890 http://www.unet.or.jp 編集人:大山正治/発行人:比嘉照夫



## 世代間交流を促進し 地域力を上げる島根県

～ 行政もJAも環境改善・有機栽培へのEM導入を援助～

取材 / 大山

島根県は中国山陰地方に属し日本海に面した東西に細長い県で、出雲大社・石見銀山・山陰の小京都津和野・宍道湖等枚挙に暇がないほどの歴史文化・自然に恵まれた所としても有名である。政治経済的には江戸幕藩体制時の名残で、県東部は出雲地域、西部は石見地域、隠岐の島の3地域に分かれている。飛行場は出雲空港、石見空港、隠岐空港と1県に3つあるが、鉄道は新幹線網が無く、東西を貫く高速道路は建設中で、部分開通なので自動車での移動には東の安来市から西の津和野間は200kmを超え、時間も5時間を超える。こうした中、子供・親・祖父母の3世代それぞれがEMを媒介として家庭内の絆を深め、そこに住む人々が交流を促進させ地域力を上げている。今月号では島根の交通事情にも拘わらず、県内あらゆる地域を元気に飛び回るU-ネット山陰地区世話人錦織文子さんの案内で、各地域におけるEM活動の成果などをご紹介する。

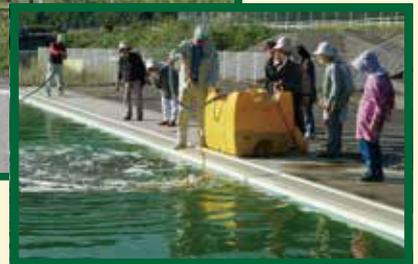


▲高津川清流ネットワークが主催する高津川保全活動での生息調査



▲「清流日本一高津川」の看板をバックに左から岩本文夫さん、錦織文子さん、村上幸子さん、吉中力さん

▼エコかじかの会メンバーによる町民プールへのEM活性液投入



### 清流日本一奪還高津川

島根県西部を流れる高津川は吉賀町の湧水・大蛇池を源流とする81kmの1級河川で、現在4年連続で国土交通省の水質ランキング日本一に輝いている。また、この川にはダムが一つもなく、清流の代名詞である天然アユが昔から有名で周囲の景観と相まって渓流釣りの名所となっている。

しかし、日本一から脱落した時期があった。これを改善しようと奮起した高津川流域の心ある人々が清流日本一の奪還活動を島根県のアドバイスを得て始めたのが平成15年の夏だった。吉賀町消費者問題研究協議会が県の

### 吉賀町、津和野町

環境アドバイザーでもある錦織文子さんを講師に招いて始まった。内容は「まず家庭からきれいな水を流しましょう」の方針で地域の方々と一緒に進めるEMによる環境改善活動。平成18年からは、流域の市町村や漁業組合・森林組合も加わり官民一体での「高津川の水質浄化を始めよう」作戦が始まり、ついには4年前に日本一奪還が叶った。

現在、高津川清流ネットワーク(吉中力代表)のメンバーで高津川流域の小中学校、婦人会、シルバー人材センターなどが「しまね自然と環境財団」の補助金などを得ながら高津川清流日本一の継続に力を注いでいる。

## 高齢者の生きがい、友だちづくり エコかじかの会

津和野町と吉賀町で EM による環境改善活動を継続している「エコかじかの会 (中野ヒサ工代表)」は、津和野町シルバー人材センターの岩本文夫事務局長の呼びかけで、地球温暖化防止に繋がる各種エコ活動を繰り広げている。「一人一人が主役」を合言葉に、講習や実技で培ったボカシや団子づくりなどの EM 技術を会のメンバーがそれぞれの地域集落に持ち帰り、地域の人たちに教えて、それぞれ地域の環境改善に寄与している。エコ活動の一つで毎年の恒例行事になっている津和野町日原の町民プールへの EM 活性液投入は、利用する中学生や町民の方々から喜ばれている。

また、昨年 8 月津和野町を襲った豪雨被害に対して、錦織文子さんの技術指導の下、同シルバー人材センターと吉賀町柿木地域婦人会 (村上幸子会長・U-ネット島根県世話人) と共に実施した EM 活性液の散布活動も記憶に新しい素晴らしい事業であった。浸水し使えなくなった家具など粗大ごみから発生する悪臭や泥水に浸かった家の床、壁、床下などの消臭・消毒に大いに役立ち大好評であった。

## EM が家庭・地域で絆を深める 吉賀町柿木地域婦人会

お年寄りが家庭・地域で必要とされ元気で孫・子と仲良く暮らせることは、今一番の幸せではないだろうか。三世帯家庭はもとより老人の単身世帯であっても、近隣の子供たちや親たちと一緒にボランティアできることは、地域社会



▲特産の「万次郎カボチャ」を持つ姉さんクラブのメンバー、左端は村上幸子さん

会での絆を深め心豊かで地域力アップが図れる。これらを EM で実践しているのが吉賀町柿木地域婦人会。町内の小中学校で高津川浄化のための EM 団子や発酵液づくり、学校プールや町民プール

への EM 活性液の投入など地域を巻き込んだ活動で成果を上げている。婦人会メンバーの「姉さんクラブ」の方々が特産品の万次郎カボチャを育てている。1 本の苗から 170 個も育てた人がいると聞いた。このカボチャを使っ



▲1本の稲穂に150~200粒も実るEM栽培

て、地元の保育園でいろいろ料理し園児や保護者たちを楽しませている。また、EM 栽培で稲作をしているメンバーに聞いたところ、1 本の稲穂の粒数だが慣行栽培では約 100~120 粒、EM 栽培では 150~200 粒も実り、しかも美味しいとの評判だという。

## EM 不耕起栽培も順調 出雲市佐田町神田農園

出雲市中心部から東へ 20 km ほどの水と緑が豊かな佐田町に神田農園 (神田久美子園主) がある。谷あいに田畑が点在し小さいが棚田も見受けられ、モリアオガエルが生息する地だから環境もかなり良いのだろう。神田さんは、この地で長く EM による野菜や稲の栽培をしている。こ

で獲れた野菜は J A の直売所等ですぐ売れてしまうそうだ。野菜栽培の多くは EM による不耕起栽培だ。畑の一角にビニールハウスがあり、そのわきに EM 栽培の里いもと慣行栽培の里いもがそれぞれ



▲神田農園の里いもは高さ2mを超す。神田久美子さん(左)と錦織文子さん

植えてあり、その違いに驚いた。慣行の 2 倍にはなる EM 栽培のもの、茎も高さが 2 m 超で株も太く、いも数も多い。もちろん美味しさも抜群だ。J A 問わずが開催する講習会の常連で、栽培に研究熱心だからだろう。

## 地域ぐるみで環境改善 出雲市須佐コミュニティセンター

地域の環境改善は地域住民自らが進める方法をと



▲出雲市須佐小学校でのEM団子づくり

り、須佐コミュニティセンター (大崎強センター長) が音頭取りをしている。近くを流れる須佐川は清流だが更なる浄化を目指して、平成 19 年から錦織文子さんを講師に迎え EM による環境浄化活動講座を月 1 回のペースで開催している。この地域

の大字単位の 6 地区から 1 地区 3~4 人出てもらい 20 人前後のリーダーを育成している。この講座では家庭での中性洗剤から EM 廃油石鹸への切り替え、家庭菜園や畑での EM ボカシ・団子使用、学校プールへの EM 投入等の実地研修に重点を置き、各地区に戻ったリーダーが教わった方法を地区で率先して拡げていく方法をとっている。この講座により須佐小学校では 4 年生が 9 月に団子づくり、11 月に須佐川への投入、12 月に成果発表が毎年行事化している。

## 安心安全な食料生産「環境シリーズ」講座は大好評

### J A 問わず



▲JA 問わず女性部によるEMボカシづくり

無農薬無化学肥料の有機栽培は農業のあるべき姿で消費者の安心安全な食料需要と合致し、時代の流れで望まれる食形態だ。しかし、農薬と化学肥料を使う現在広く普及している慣行栽培は、人手不足で高齢

化した農業従事者が多い農業現場ではやむを得ない現状でもある。海外からの農産物に頼ることなく、食糧安保の基本的考えのもと自国での自給自足食糧確保は大切で重要な問題だ。しかも、安心安全な食料の生産は心ある農家の悲願でもある。こうした時代背景での対応として、J A 問わずが主催し錦織文子氏が指導する「環境シリーズ」はこれを満たす格好の実地講習会だ。毎月 1 回、EM によるボカシや団子づくり、病害虫対策、先進地視察など大好評だ。月 1 回の講習会には欠席者がほとんどいないという。EM の良さを実感しているからだと思う。



# 第 5 回 「海の日」

## 全国《47都道府県参加》一斉EM団子・EM活性液投入集計【最終結果】

都道府県	団体数	人数(人)	団子(個)	活性液(L)	主な投入場所
北海道	2	10	950	37,530	しのつ湖、幾春別川、レクの森池
青森	4	24	500	9,300	沖館川、十和田湖
秋田	5	322	2,400	20,400	大館樹海ドーム池、梨木公園沼、米代川
岩手	69	274	825	17,380	高松の池、見前川、松川、北上川、原敬記念館の池
宮城	12	364	14,000	33,400	荒浜、貞山堀、中里川、天沼、仙台川、藤川
山形	15	223	7,856	3,860	倉津川、鳥海月山両所宮鏡池、野呂川、元宿川、関川、長瀬堀、最上川
福島	25	528	7,830	81,520	広瀬川、安達太良川、ふれあい村民の森池、南川、亀田川、梨池、蜷川、境川、四倉の川、笹部川、小国川、長沼
新潟	7	179	1,050	1,682	三条市八幡お堀、三面川
富山	1	45	0	400	富山市内小学校プール
石川	1	60	1,600	0	徳光海岸
長野	4	339	3,515	25,928	塚間川、十四瀬川、境川、諏訪湖
福井	1	40	0	800	今川
岐阜	37	900	0	11,800	瑞浪市内小学校プール
茨城	8	272	16,609	42,300	北浦湖、恋瀬川、菱木川、相野谷川、広浦漁港、霞ヶ浦、巴川、桜川、鉾田川、柏原公園池、上谷原池、下谷原池
栃木	8	223	2,000	1,450	三杉川、栃木総合運動公園池
群馬	2	20	400	100	滑川、烏川、烏川公園の池
埼玉	2	30	3,000	4,400	菖蒲川、さくら川
東京	5	2,000	3,000	80,000	日本橋川、外濠
千葉	6	201	10,500	73,326	汐入川、どんだん川、宇田川、江戸川
神奈川	4	72	300	4,750	目久尻川、梅沢川、田代川、打越川、宮川
山梨	4	93	6,200	1,200	武田神社のお堀、下田川
静岡	4	668	8,055	3,780	野守の池、浜名川、木屋川、横須賀川
愛知	27	1,521	23,820	119,690	三河湾、伊勢湾、武豊堀川、占部川、新江川、碑田川、鹿乗川、長田川、鳥羽川、家下川、みどり川、矢勝川、足助川、草木川、多屋海岸
三重	40	1,541	57,000	20,725	阿瀬知川、米洗川、白子漁港、賢崎海岸、津なぎさまち港、岩田川、専修寺の池、磯崎漁港、白石湖、引本港、十四川、宮川、津城お堀
滋賀	1	104	1,159	2,064	琵琶湖、南出川、よしきりの池
京都	1	50	800	3,500	天橋立
奈良	5	187	1,600	8,120	蛙股池、東大寺の池
大阪	6	300	8,700	3,560	石津川、道頓堀川、安威川、淀川、長瀬川、恩知川、新安居川
和歌山	1	125	1,200	0	八王子池
兵庫	3	16	100	2,460	屏風ヶ池、有馬ロイヤルゴルフ場内池、市川、船像川、加古川、天川
鳥取	1	5	200	300	日野川
島根	39	915	34,660	16,070	木戸川、前の川、社日公園の池、斐伊川、神門川、大社堀川、高浜川、赤川、日御崎神社池、神西湖、古内藤川、高津川、船川
岡山	2	71	2,000	17,400	瀬戸内海、小田川、下村川、仙瑞川、郷内川、倉敷川
広島	1	16	1,560	65	冠川
山口	1	1	300	0	瀬戸内海
香川	6	260	30,000	30,100	久米池、岩黒港、瀬戸内海
愛媛	4	390	3,720	5,667	千丈川、黒瀬川、瀬戸内海、内川、鴨池海岸、有津屋川、塩屋遊水池、国近川、宇和川、今治港
徳島	10	592	19,367	8,760	徳島城公園堀川、新池川、長谷川、七牧水尾川、五牧水尾川、修景池、熊野川
高知	1	100	10,000	1,000	宇治川
福岡	9	961	81,600	74,270	曲川、垣生池、遠賀川、矢部川、有明海、堂面川、新々堀川
佐賀	5	109	1,913	2,000	轟木川
大分	6	150	1,900	390	裏川、玖珠川
熊本	2	70	100	5,550	河内川、有明海、上津浦川、下津浦川
宮崎	9	467	10,339	7,193	上永ノ内川、小丸川、石崎川、西境川、大淀川、葉広田川、五ヶ瀬川、姫城川、花の木川、舞鶴公園の堀
長崎	10	1,443	3,338	87,660	大村湾、有明海、北浦海岸、茂木港、若菜川
鹿児島	20	1,076	45,512	10,510	後郷川、枕崎漁港、山田川、須崎浜、新田川、八房川、高牧の池、石神川
沖縄	17	631	27,800	56,000	中城湾、普天間川、天願川
<b>合計</b>	<b>453</b>	<b>17,988</b>	<b>459,278</b>	<b>938,360</b>	※小さな河川、用・排水路等の掲載省略
昨年度	484	17,416	508,204	928,181	



## 着実に広がる EM 活動。11 月 29 日は念願の 「善循環の輪・大分県の集い」開催 ～ 大分県大分市 ～

取材 / 杉山

### 収穫前から完売の EM 米づくり 大分市釘宮農場

大分市種貝地区に住む釘宮辰巳氏は、EM による水稻栽培を始めて久しい。化学肥料や農薬は健康に良い影響があるとは思えないので使わない(全て EM ボカシと EM 活性液で栽培している)と話す。釘宮氏の EM ボカシには米糠 (30kg) に対して油粕 (12kg)、カキ殻や魚粉、燐炭をそれぞれ 3kg で発酵熟成したタイプに加え、米糠、モミ殻だけのタイプの 2 種類がある。春に行う育土(土づくり)には前者を 300kg/反、後者を 150kg/反を元肥として入れたら追肥はしない。また、根が活着するのを見計らって定期的に EM 活性液を流しているそうだ。



▲間もなく収穫を迎える自信の水田。左より浅野盛司さん、釘宮辰巳さん

頭を垂れた稲穂を手に取り、満足気に今年の収穫量に自信を見せ、家族で食べる分以外は全て予約で一杯になっている程の美味しさを誇る。稲と稲との間を駆け、光合成が隅々まで活発に行えるよう工夫する等、日々の研究にも余念がない。周囲には折からの台風 18 号の影響で倒れた稲が多く散見されたものの、釘宮氏の稲は全くその気配がなくその対比に驚く。収穫はこれからだが、例年以上に収穫量と共に整粒の割合が多くなると期待している。

### 裏川の水質浄化に取り組む 大分市立津留小学校



▲悪戦苦闘しながらの EM 団子づくり。今では楽しい想い出

市立津留小学校は 4 年生の児童による環境学習活動として、EM 団子や米のとぎ汁発酵液を作って、近場の裏川に投入して来た結果、ヘドロの減少に伴って悪臭も消えたと周辺住民から喜ばれている。川底には無数の EM 団子の着底跡が窪んで見え、強力な EM コロニー形成が進むと同時に周辺のヘドロが分解され、元々あった砂を多く見る事ができる

ようになった。とはいえ、実際に環境学習で EM 団子や米のとぎ汁発酵液を作った児童達に聞いたところ、「EM の臭いが嫌い」、「団子がフニャフニャして気持ち悪かった」、「手がスベスベするようになった」、「米のとぎ汁発酵液は破裂するので怖い」、「ボラ、カメ、カニが多くなった」等々の感想があったが、総じて楽しく環境浄化活動が出来たようだ。

担任の三浦明子先生や U-ネット大分県世話人の浅野盛司氏は、来年も同じようなメニューで環境学習をするのお話であったが、是非にも続けてもらいたい活動である。



▲EM 環境学習の苦労話や成果を語る津留小学校 4 年の皆さん。上段左より三浦明子先生、松井我空君、下段左より池田桃珂さん、梶原里紗さん、上田安香音さん

### EM ボカシや EM 活性液づくりで生きがい創出

#### 大分市牧「どんぐりの家」



▲EM ボカシや EM 活性液を作る障がい者の皆さん

社会福祉法人榎の木の障害福祉サービス事業所「どんぐりの家」は、大分市牧にあり、入所者約 20 人と共に EM 製品製造及び販売を手掛ける。事務棟の横には、本格的な設備を持つ作業棟があり、主に生ごみ堆肥化に使用する EM ボカシや EM 活

性液を作っている。サービス管理責任者の廣石嘉智氏に話を聞いたところ、EM 製品製造は比較的に単純で、時間もかからないので皆に喜ばれている、と言う。出来上がった EM ボカシは市内 7 か所にある直売所に並べ販売しているが、その製品管理をするのが浅野盛司氏で毎週決まった時間に出向いて消化状況の確認と製品の補充をしている。EM による有機家庭菜園をする方々の増加に伴って、売上は上々で身体に障がいを持つ人たちの生きがいと新たな目標にもなっている。

i n f o r m a t i o n

## 事務局からのお知らせ

### ■今後の主要行事のご案内■

- 善循環の輪・兵庫の集い in 稲美 **日程** 11 月 8 日(土) **会場** 稲美町立コミュニティセンターホール
- 第 3 回 環境フォーラム **日程** 11 月 22 日(土) **会場** 福島県教育会館 大ホール
- 善循環の輪・大分県の集い **日程** 11 月 29 日(土) **会場** コンパルホール 3F 多目的ホール

### ■理事会・臨時総会のご案内

日時:12月2日(火) 14時00分～14時10分(理事会) / 14時10分～14時20分(臨時総会)  
場所:U-ネット事務所 正会員の皆様には、すでに議案を郵送しております。

### ■年次通常総会・事業報告研修会のご案内

日時:平成27年2月28日(土) 13:00～17:30(終了後、交流会)  
場所:芝公園フロントタワー 2階 正会員の皆様には、2月初旬に議案を郵送いたします。